Gastro-Health Now

認定ＮＰＯ法人
日本胃がん予知・診断・治療研究機構
Certified Non Profitable Organization
Japan Research Foundation of Prediction,
Diagnosis and Therapy for Gastric Cancer (JRF PDT GC)

目　次

◆ 佐賀県における若年者からの
　胃がん撲滅プロジェクト ……1
◆ あとがき・お知らせ……4

印刷　城南印刷工芸(株) 03-3752-3391

発行所　認定NPO法人
日本胃がん予知・診断・治療研究機構
〒108-0072
東京都港区白金１丁目17番２号
白金タワーテラス棟 609号室
電 話　03-3448-1077
FAX　03-3448-1078
E-mail：info@gastro-health-now.org
http://www.gastro-health-now.org

2018. 2. 1
第51号

佐賀県における若年者からの胃がん撲滅プロジェクト

はじめに

胃がんの大きなリスク要因の一つは、ピロリ菌の感染です。2014年にWHO（世界保健機関）は「胃がんの主な要因はピロリ菌であり、胃がんの80%はピロリ菌による」と報告しました。胃がんを予防するためには、ピロリ菌の感染予防が確実に実施できない現況の中では、感染が確認された場合はピロリ菌を除菌することが肝要です。

新たな胃がん予防の手段として、若年者へのピロリ菌感染検査および除菌が全国各地で始まっています。ピロリ菌感染後なるべく早期に除菌することが、胃がん抑制効果を高め

佐賀大学医学部小児科
未来へ向けた胃がん対策推進事業センター
垣　内　俊　彦

日本医事新報社
定　価：4,536円（本体4,200円＋税）
ISBN：978-4-7849-4501-6

ABC胃がんリスク層別化で
内視鏡で
X線で　—検診・診療・予防—

胃炎をどうする？ 第2版

編 三木一正
認定NPO法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構理事長　東邦大学 名誉教授

- 好評を博した「胃炎をどうする?」の第2版!
  胃がん対策の現状とこれからを知るためにかかせない1冊です!
- 「H.pylori感染の診断と治療のガイドライン」の2016年改訂に伴い、データを大幅アップデート!
  カットオフ値は?検査キットは結局それぞれどうちがうの?そんな疑問にお答えします!
- いまや全国282箇所の自治体が「胃がんリスク層別化検査」を採用しています(2017年9月現在)。
  また、世界的にも「胃がんリスク層別化検査」の胃がん死亡予防を検証する大規模な研究がWHOのもと施行されようとしています。
  この流れからも、「胃がんリスク層別化検査」が、いま注目されているのは間違いありません。

ることが判明しています。佐賀県でも平成28年度から、県内すべての中学校・特別支援学校の中学3年生を対象にピロリ検診を開始しました。ピロリ菌の感染検査から除菌、除菌判定までを佐賀県からの全額公費助成でおこなうもので、都道府県単位での実施は全国初のことで、注目を集めています。

佐賀県の若年者ピロリ検診「未来へ向けた胃がん対策推進事業」図1

本事業に同意された生徒には、毎年春に実施される学校検尿を利用し、その残尿で尿中ピロリ抗体を検査します。結果は佐賀大学に設置した事業センターで一元管理し、個人宅に直接郵送します。陽性者には、便中ピロリ抗原検査キットを同封し、生徒は自宅で便を採取し事業センターに冷蔵宅配便でキットを送り返し、事業センターで検査がおこなわれます。尿、便検査ともに陽性の方は、15歳の誕生日以降に、県内指定の協力医療機関に出向き、担当医から再度ピロリ菌除菌の説明を受けます。それに同意されれば内視鏡検査未実施の上で除菌治療が開始されます。除菌8～12週間後に尿素呼気試験で除菌判定をおこないます。除菌失敗例は二次除菌、三次除菌と進んでいきます。

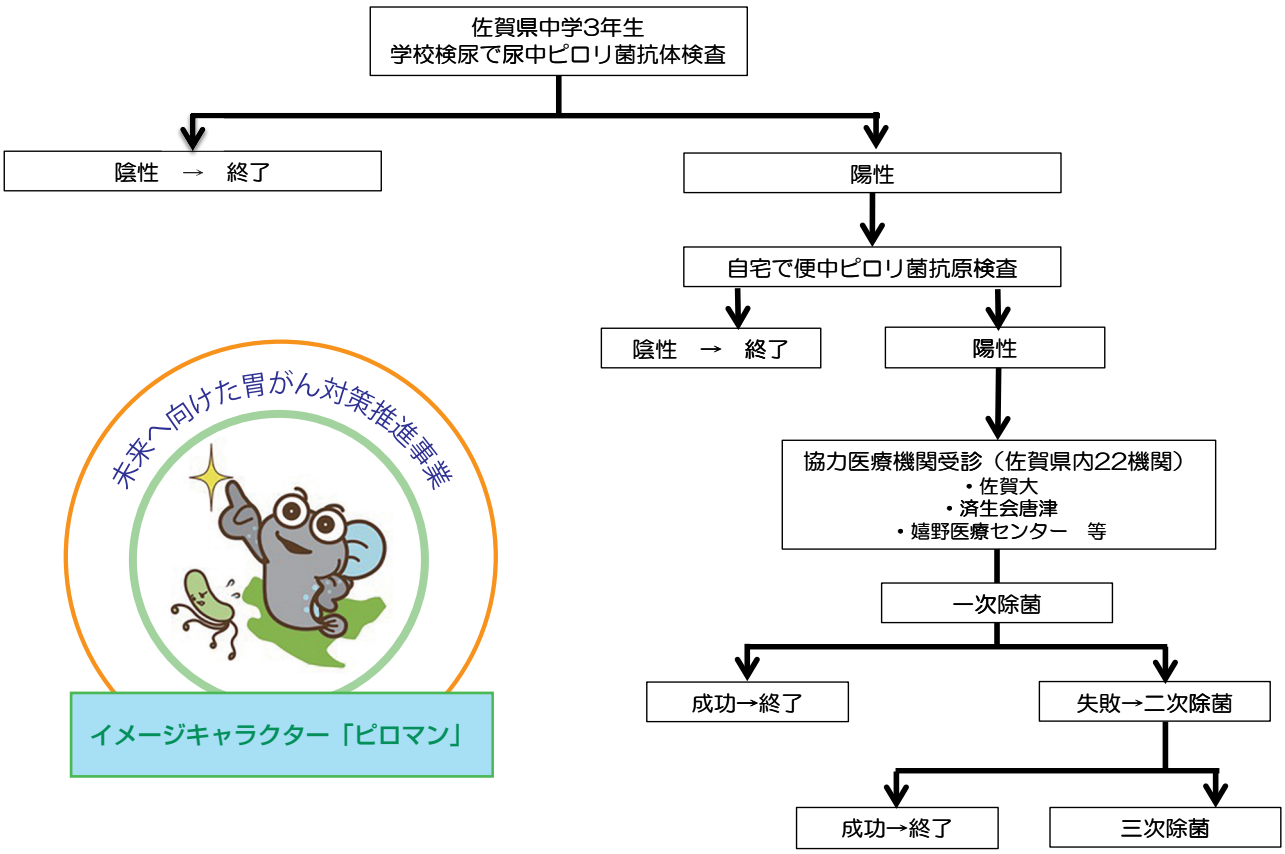
ピロリ検診結果　図2

平成28年度、佐賀県全中学３年生は8,912人でした。そのうち6,994人(78.5%)が本事業に同意され、実際には6,953人が尿中ピロリ抗体検査を受けられました。結果、399人(5.7%)が陽性でした。陽性者のうち、334人が便中ピロリ抗原検査を受けられ248人が陽性の結果で、最終的にはこの248人がピロリ菌感染者となりました。平成28年度の、佐賀県での検査を受けた中学生3年生でのピロリ菌感染率は3.6%の結果となりました。平成29年9月の時点で、184人が除菌治療を受けられ83%の方が一次除菌に成功し、二次除菌は全員が成功しています。副反応は、5.1%の方に認めていますが、治療を要するような重篤なものはありません。佐賀県では、除菌薬として、ボノプラザン、アモキシシリン、クラリスロマイシン、酪酸菌製剤を使用していますが、安全に除菌ができているものと考えています。

今後の課題と展望

この取り組みのねらいは、胃がんの原因であるピロ

図１　未来へ向けた胃がん対策推進事業・実施スキーム

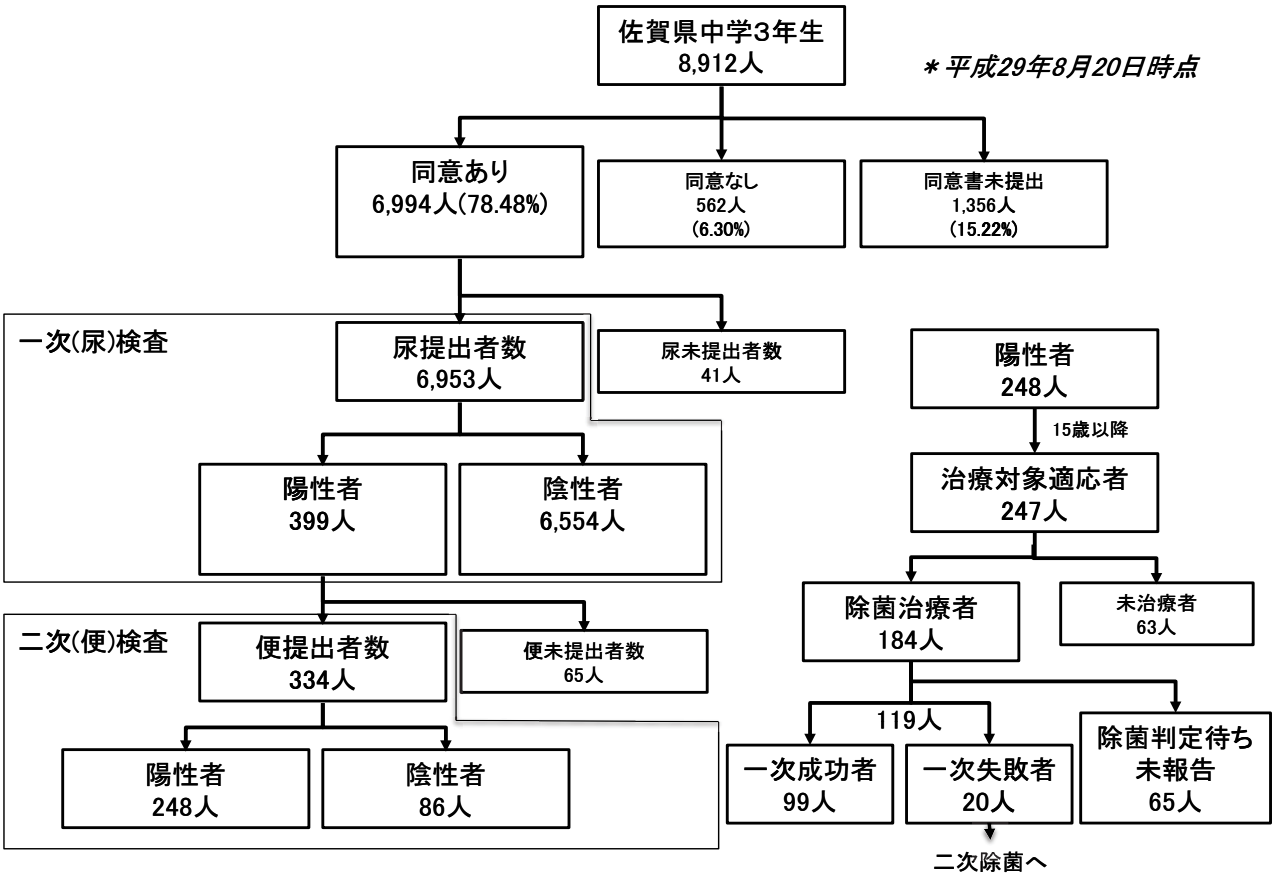


リ菌を、胃がんを発症する前に除菌してもらい、将来の胃がんを予防することです。また、中学生の時にピロリ菌を除菌してしまうことで、現在の主な感染経路である家族内感染を断ち、将来の自分達の子どもへのピロリ菌感染を阻止することも期待できます。また、若年者に発症する未分化型胃がんにおいてもピロリ菌の関与が指摘されていますので、将来だけではなく、生徒達にとっても身近な胃がんも予防可能と考えています。

しかし、若年者への除菌を含めたピロリ検診の安全性については賛否両論があるのも事実です。また、若年者のピロリ検診が全国に広がる中で、現在の胃がん検診とどのように結びつけていくか、また現在の胃がん検診自体が今後どのようにあるべきかについて議論することも今後の大きな課題です。佐賀県では、本事業を活用し、様々な臨床研究を開始しています。除菌の安全性を確認する目的で、ピロリ菌感染者と非感染者とでの腸内細菌叢の比較、ピロリ菌除菌前後での腸内細菌叢の変化などを研究しています。また、除菌薬選択にとって参考となるピロリ菌のクラリスロマイシン耐性を簡単に検査できる手段を確立しつつあります。臨床研究をおこなうことで、本事業の安全性をさらに確立していき、今以上に全国に広げていきたいと思っています。

佐賀県は、平成26年における75歳未満の人口10万人当たりの胃がん死亡率がワースト2位でした。この取り組みを継続していけば、将来的には胃がん撲滅も可能だろうと考えています。本事業が、胃がん撲滅への第一歩となるものと確信しています。また、この事業をきっかけに、家族内でがんについて話をする機会を設けていただき、生徒だけではなく保護者の方のがん検診受検率向上にも寄与することを期待しています。

図２　平成28年度　事業結果



ホームページは随時更新中です！どうぞご覧ください

http://www.gastro-health-now.org

本誌バックナンバーは、インターネット上でご覧いただくことができます。

あとがき

平成28年に佐賀県下の中学生を対象としたピロリ菌対策事業が始まったときから、今回の報告を心待ちにしておりました。昨年のヘリコバクター学会のシンポジウムで垣内先生のご発表を拝聴し、壇を降りる先生に直談判してご寄稿をお願いした次第です。胃がんの自然史を考えれば、若年者のピロリ菌対策が究極の胃がん撲滅対策であることは論を待ちませんが、疫学的な裏付けをとるのが難しく、厚労省の方針として採用されていないこともあり、その実施にはたいへん勇気が必要で、今のところ先駆的な地域で限定的に実施されているにすぎません。

健診事業や予防接種などの医療施策は市区町村単位で実施されることが多いのですが、今回の事業は山口祥義知事の肝入りで、佐賀県全県下で実施されています。市町村合併で数は減っているとはいえ、全国1700余りの市区町村を動かすと考えると気が遠くなりますが、あと46都道府県であれば、何とかなるのでは？と期待が膨らみます。将来、佐賀県出身者は胃がんにならない、といわれるのか、胃がんにならないのが当たり前の日本になっているのか、今が正念場です。 (M)

2016 年 5 月 山口祥義佐賀県知事を訪問しました。以下は Gastro-Health Now 43 号（2016.8.1 発行）に掲載した内容です。

News 再掲

5 月 23 日(月)佐賀県首都圏事務所（都道府県会館内）で、山口 祥義（やまぐち　よしのり）佐賀県知事にお話をうかがいました。

佐賀県は、都道府県としては全国初の試みとして、2016 年度から『未来へ向けた胃がん対策推進事業』の名称で、県内の中学 3 年生を対象にピロリ菌の感染検査を実施し、除菌費用も全額助成する事業を開始しました。

この事業は、山口知事ご自身が胃がんになって入院された際、担当医から「胃がんの多くはピロリ菌が原因であって、それを取り除けば将来的な胃がんの発症リスクは大きく減少する」という話をうかがったことをきっかけに実現したとのこと。この取組の成果は三十年、四十年後となりますが、『佐賀の子どもたちの将来へのプレゼント』という思いも込めて、将来、子どもたちが「佐賀で育ってよかった」と思えるように、一人でも多くの生徒に検査を受けていただきたいと、山口知事はおっしゃいます。

具体的には、学校の健康診断で行われる尿検査の尿を用いて、保護者から事業への同意が得られた生徒を対象に感染検査を行い、陽性者には追加検査で精査した上、ピロリ菌除菌に結び付けます。実施にあたっては、保護者から事業への参加意向確認書を提出してもらい、検査結果は学校を介さず個人の自宅あてに通知するなど、生徒のプライバシーへも十分配慮した上、陽性となった生徒及び保護者の不安解消のために、佐賀大学医学部附属病院と密接な連携を行ない、除菌治療に向けた専門の医師による相談支援体制を整えています。

われわれは今後も佐賀県の取り組みに注目し、近い将来に本紙で成果をご報告いただけることを願っております。

佐賀県首都圏事務所にて

事務局より　お知らせ

■ **平成29年度　ご支援のお願い**

本年度も胃がん撲滅に向けて活動して参りますので、引き続きみなさまのご支援をよろしくお願いいたします。

【会費】平成29年度（平成29年4月1日～平成30年3月31日）
賛助会費　（個人）1口3000円　（法人）1口30,000円
【寄附】平成29年度（平成29年4月1日～平成30年3月31日）
当機構は平成25年5月29日に認定NPO法人になり、2000円を越えるご寄附をいただきますと税制上の優遇措置がございます。寄附金受領証明書が必要な方は事務局へご請求ください。

■ **お振込み先**

＊三菱東京ＵＦＪ銀行 目黒駅前支店　普通預金 No. 0008527
特定非営利活動法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構 理事長 三木 一正
＊ 郵便振替　00130-9-429200　日本胃がん予知・診断・治療研究機構

☆お振込の際、ご親族・職場等、複数の会員様でまとめる場合は、お手数ですが払込取扱票の通信欄に全員のお名前をご記入下さい。

■ 転居・所属変更・退会希望等は、お早めに電話・FAX・メールにて事務局までお知らせ下さい。

認定NPO法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構
電話　03-3448-1077　FAX　03-3448-1078　E-mail : info@gastro-health-now.org